学 位 論 文 内 容 の 要 旨

学位申請者	佐野　香織 【比較社会文化学専攻　平成21年度生 平成29年度再入学】	
論 文 題 目	省察的実践者をめざす学びと教育 －大学院日本学科における実践	
審 査 委 員	（主査）　教授　森山　新	
	教授　佐々木　泰子	
	講師　加納　なおみ	
	教授　浜野　隆	
	玉川大学　教育学部　教授　中村　香	

要　　旨

本論文は、東欧の大学院日本学科において、ことばの教育の枠組みを問いなおす中で、互いに省察しあいながら探究を行う大学院生の学びを検討し、社会を展望することばの教育と学びを考察したものである。日本学研究の伝統のある東欧のことばの学びは、知識教授、準備教育としての日本語教育という自明の構造の下に存在してきた。しかし、多様な興味・関心やテーマを持つ大学院生が共に学ぶ中、異なる他者といかに学びあうのか、問い直しと再構築が求められている。

本論文では、筆者の教育実践を軸に、それを行うに至る筆者の省察と、大学院生の学びを記述した。大学院生の活動は各々の興味・関心を基に行った日本語によるブログ型専門分野コミュニケーション活動を取りあげた。

その結果、教育者、大学院生の学びの展開における前提を問いなおす重要性、そのためには折りあいながらも協調的な場（conviviality）を創っていく協働の姿勢が求められること、この協働の場において相互省察をしていくことは重要であると共に困難も伴うことを明らかにした。そして、個人の学びの前提を長期的・包括的に見渡し学び続けることを可能とする機会を作ること、協調的な相互省察につなげながら探究をすすめるために、越境の学びの場、仕組みのデザインが必要であることを提言した。